

名古屋情報専門学校

名古屋情報専門学校
学校自己評価報告書
(令和5年度)

令和6年 3月

学校法人名古屋学園
名古屋情報専門学校

名古屋情報専門学校

名古屋情報専門学校 学校自己評価委員会

委員長	伊藤 和明(校長)
副委員長	橋本 和弘(事務長)
委員	大西 岳司(教務主任)
	中西 達也(進路指導主事)

名古屋情報専門学校

・評価の基本方針

(1) 評価の目的

- ・実践的な職業教育を行う機関として、関係業界等のニーズを踏まえ、理念・目的・目指す人材等をどのように掲げているか。また、質の高い職業教育が享受できる学校運営と専修学校教育の発展を目指すために行う。

(2) 評価の体制

- ・学校評価委員会にて評価する。

(3) 評価基準

- ・設定した教育目標や計画に照らし、具体的かつ客観的なデータに基づき評価する。

(4) 評価の公表

- ・自己評価の結果の報告書には、目標や達成状態および取り組みの適切さを簡潔かつ明瞭に記述する。
- ・学生、教職員の個人情報保護や安全確保に留意して、報告書に記述するものと非公開とするものとを区別する。
- ・学校評価の結果は「学校ホームページ」にて公開する。

(5) 結果に基づいた学校運営の充実と改善

- ・学校評価委員会において、分析および課題の洗い出しを行う。
- ・評価結果は、学校関係者評価委員会において評価項目の達成度についての点検を行う。
- ・委員会での評価をもとに、次年度に向けた重点目標を設定し、全職員共通認識のもとで、学年・教務・校務・生活指導の分掌単位で改善に取り組む。

名古屋情報専門学校

基準1 教育理念・目的・育成人材等

評価項目	評価
・理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・学校における教育の特色は定められているか	4
・学校の将来構想を抱いているか	4

※評価： 適切... 4、ほぼ適切... 3、やや不適切... 2、不適切... 1

点検中項目【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか

創立以来、以下のとおり一貫して学校の理念を明確にしている。

1. 本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」
2. 学生一人ひとりのニーズを満足させるとともに、クオリティーの高い技術者を育成する。
3. 常に最終教育機関に値する使命と責任を自覚し、周囲から愛される人、信頼される人、尊敬される人としての素質と、気風を培うため、健全中正な社会観、人生観を保持する人間教育を実施する。

以上の理念は全教職員および全学生に周知しており、学内外に向けてもメッセージを発信している。

点検中項目【1-2】 学校の特色はなにか

担任制によるきめ細やかな指導を行っている。専任教員が多く、講師陣は各教科、その道の第一線で活躍するプロの講師が指導し、充実した教育体制を整えている。

また、実践・体感教育による人間力向上をテーマとして取り組んでいる。

実践・体感教育では、実際の仕事をとおして学ぶジョブトレーニングや地域や施設でのボランティア活動をとおして社会貢献も行っている。

令和元年度からは、障害者雇用枠での就労を目指すクラスを設け、現場実習および企業評価を受けることで、就労に結び付けていくことにも取り組んでいる。

点検中項目【1-3】 学校の将来構想を抱いているか

学科編成・新設学科設置計画は、時代のニーズにあった分野や教育内容の中・短期にわたり研究し、それに沿った施設設備等の充実計画を立て、学校の理念や教育目標の実現を目指している。

名古屋情報専門学校

基準2 学校運営

評価項目	評価
・運営方針は定められているか	4
・事業計画は定められているか	4
・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4
・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3
・意思決定システムは確立されているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

点検中項目【2-4】 運営方針は定められているか

各年度において、理事長から学園の運営方針が発表され、全教職員に周知されている。それに伴って本校の年度の運営方針が定まり、各部署で具体化されている。

通常業務においては、学校組織図・職務分掌表によって遂行され、職員会議をはじめ就職・教科など各種会議において運営方針に沿った各業務や教育活動の確認が行われるとともに、業務内容の見直しや検討もなされ、円滑な学校運営が行われている。

点検中項目【2-5】 事業計画は定められているか

年度毎に施設充実計画・事業計画を策定している。施設充実計画は前年度1月末までに計画し、理事長、理事会、校長の承認を得て、年度当初の職員会議において教職員に発表周知されている。執行状況は各部署・担当から管理監督者に随時報告があり、完了後、報告書にて提出される。

点検中項目【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

運営組織は、学校組織図・職務分掌表において明確に示されている。教務・指導・校務・事務の各部署はそれぞれの業務を遂行し、かつ相互間で連携し、機能している。

「理事会」「評議会」は学校法人運営について定めた「寄付行為」により、定期的開催されている。

以上のような組織運営体制は、効率的であると判断できる。また、重要案件については、相当部署において「相談事項」として書類を作成し、理事長決済後、保管している。

点検中項目【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

教職員採用については、中長期計画を立て、退職者の後継者となる若手の採用と育成を予定している。人事考課については、教育委員会の方法を基準として育成型の評価を行い、管理職による定期的な授業見学や助言・指導を行っている。賃金については、「給与規定」に基づいて支給し、年齢と勤務年数、役職によって賃金テーブルが規定されている。

名古屋情報専門学校

点検中項目【2-8】意思決定システムは確立されているか

組織図・職務分掌によって業務内容・範囲の基本が示されており、各事案の立案や報告は主管部署の責任において、定められたフォーマットの「相談書」「報告書」として文書化される。それらは、校長・理事長の承認を得て確定事項となる。また、特に重要な案件や、新規案件、大幅な変更があった事項等は、事前に校長・理事長に具申の上、「理事会」の承認の上、教職員に周知されている。

点検中項目【2-9】情報システム化等による業務の効率化が図られているか

基幹システムには、教務管理システム・学校経理システム・給与会計システムの3系統があり、それぞれのネットワークはセキュリティ上の理由で物理的に仕切られている。

教務システムは、令和元年度から外部委託により作成されたものを本稼働させて、運用も順調である。

名古屋情報専門学校

基準3 教育活動

評価項目	評価
・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	3
・カリキュラムは、体系的に構成されているか	4
・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はあるか	4

点検中項目【3-10】各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

各学科の「教育目標」「カリキュラム」及び「各科目の講義概要」は毎年見直しを行うことで、業界に適した構成・内容になるようにしている。特に、専門分野の科目のみに偏ることなく一般教養的やビジネスマナー等の就職に対応した科目も組み込んでいる。また、スーパーアドバイザー（特別講師）として第一線で活躍中のプロを招き、授業の中でより実践的な学習ができるようにしている。

点検中項目【3-11】各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

各科目の「授業計画（コアシラバス）」は、シラバス作成要領に従って授業担当者により作成される。教務責任者によってその内容確認・承認を行うことで、適宜、学習内容（レベル）や学習量の軽重の調整がなされている。

また教務責任者は、定期的に学生アンケートや企業アンケートを行い、学生の意見と社会状況を把握し、「授業計画（コアシラバス）」に反映できるようにしている。

名古屋情報専門学校

点検中項目【3-12】カリキュラムは、体系的に構成されているか

「学園建学の精神」及び「学校教育目標」をもとに、各学科とも「教育目標」を設定。教務責任者と各学科責任者は、「教育目標」をもとに科目内容の見直し等を前年度に行い、カリキュラムを決定している。

各学科のカリキュラムは、「基礎科目」「専門科目」で構成されている。特に「専門科目」は、必要に応じて科目間の連携を図ることができるよう、授業担当者と授業内容が設定されている。また、学年が上がるにつれてステップアップできるよう体系的に構成されている。

他にも、「専門科目」の学習に幅を持たせられるよう、「選択授業」を設けている。

このような体系的カリキュラムが円滑に運営できるよう、年度初めには常勤教員・非常勤講師による会議を開き、授業内容と運営についての打ち合わせを行っている。

点検中項目【3-13】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

授業時間数は、学年別に適切な配分がされている。また、科目ごとにシラバスが作成され、学習内容とその教育目的は明確にされている。

各学年で資格・検定取得状況を検討し、その結果をもとに、教務責任者が学年末に各科目の内容等の見直しを行っている。

点検中項目【3-14】授業評価の実施・評価体制はあるか

教務科による授業アンケート・授業視察を行い、その結果は随時担当教員に伝達・指導するようにしている。授業担当者の授業内容改善のための工夫や努力については、定期的に行われる職員会議によって評価している。

点検中項目【3-15】育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

新規の採用においては、常勤・非常勤とも、職務経歴書の精査と面接による選考を行っている。特に面接は、教育者としての資質と自覚の評価に重きを置いている。

常勤教員は、各学科の責任者の指導のもと研修を行う体制を整えている。また、教務責任者主導による研修も随時行っている。

非常勤講師において教務責任者は非常勤講師との打ち合わせの機会を適宜持ち、学生指導についての現状を確認している。

点検中項目【3-16】成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

成績評価方法については、教務内規「採点基準」として明記され、授業担当者及び学生に周知されている。また、授業担当者に対しては年度初めの会議において、成績評価の基準が「学校教育目標」「各学科の教育目標」に沿うよう周知している。単位の認定については、学則に明記されているが他の教育機関との単位互換制度はない。

名古屋情報専門学校

点検中項目【3-17】 資格取得の指導体制はあるか

資格取得のための学習は、関連する授業内容に反映されるよう「講義概要」に位置づけられている。また、検定試験受験希望者に対しては、検定試験担当者が申し込みから補習授業に至るまできめ細かい指導している。

教務責任者は、検定試験担当者から受験状況及びその結果の報告を受け、次年度の授業運営及び資格試験指導に反映させている。

名古屋情報専門学校

基準4 教育成果

評価項目	評価
・就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	3
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

点検中項目【4-18】就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

学校全体で就職率アップを図っている。各クラスの就職活動状況は毎月教職員間に報告しており、全教職員が状況を把握するようにし、就職指導担当教員だけでなく全員が、学生の就職指導に当たっている。特に本校では学園の教育理念である「社会から喜ばれる人材育成」を主眼においてきめ細かい指導に取り組んでいる。

本校だけでの就職先斡旋にこだわらず、就職斡旋・サポートを行う民間企業の活用を行っている。

令和5年度は、コロナ禍が明けて就職活動においても制限のかからない中で行われ、活発に行動できた学生がいる一方で、高校および専門学校1年間をコロナ禍で過ごしてきたことで、判断や行動に迷いが生じている学生も多くいた。

しかし、終盤で就職斡旋・サポートを行う民間企業の活用したことにより、採用につながる学生も多数いた。採用に繋がらなかった学生も若干名おり、希望する学生には、卒業後もサポートを行っている。

点検中項目【4-19】資格取得率の向上が図られているか

検定資格には、国家試験の他、情報系の各検定があるが、どの資格も、それがなければ専門分野に就職できないというものではない。しかし、学生が、自身の知識・技能をさらに高めようとする意欲と情報技術の自信を身につけるために、各検定受験を推奨している。

検定資格試験後は、合否結果を担当者が全教職員に回覧し、受験者増・合格率向上に対する教職員の意識を高めている。

名古屋情報専門学校

点検中項目【4-20】 退学率の低減が図られているか

昨年度と比較して退学者が増加した。特に1年生の退学者数が多く、目的意識の低い学生に退学が目立った。退学理由の内容種別としては、進路変更が多く、続いて学業不適應による退学者が続く。

無断欠席者、長期欠席者等には家庭との連絡を密にとり、保護者との二人三脚で退学にならないように対応している。必要な場合は家庭訪問も実施している。

経済的理由による退学は、昨年度同様に高等教育費負担軽減政策により改善しているが、成績等の理由により打ち切られる学生も出てきており、課題となっている。

点検中項目【4-21】 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

卒業生の動向を扱う組織としては校友会があるが、日常的に卒業生の動向を把握しているわけではない。現実には各担任が卒業生との連絡を密にとっており、そこから情報を得る場合が多い。在校生の社会的な活動は担任が把握しており、顕著な活躍があった場合はその都度評価し称えている。

予定実績のある企業から報告を受けることもあり、活躍している卒業生がいる場合には、在校生に伝えている。また、仕事に対して不安を抱える卒業生の話があった場合には、旧担任や進路指導主事からサポートを行うようにもしている。

また、卒業後もスクールカウンセリングおよびキャリアカウンセリングを利用できる環境を作っており、卒業時に卒業生には案内している。

名古屋情報専門学校

基準5 学生支援

評価項目	評価
・就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3
・学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
・学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3
・課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	3
・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3

点検中項目【5-22】 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

就職・進学指導は、就職指導担当教員とクラス担任が連携して、きめ細かく計画的に行っている。1年次は、ビジネスマナー講座、職種の研究、適正判断、エントリーシート・履歴書の作成指導などを行い、2年次は、就職活動指導、模擬面接、インターンシップの導入など、より具体的な学生支援を行うことで、確実に成果を上げられるよう努めている。

また、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラーを招き、学校と連携して、学生の就職・進学への支援を行っている。

企業訪問等による求人企業開拓も通年で実施するとともに、企業展への参加、求人情報ネットワークも活用し、学生の多様な希望職種に対応できるよう努めている。

大学3年次編入希望者には、編入試験の受験対策を丁寧に指導している。

一方、卒業者に対する中途採用試験の斡旋や、早期離職率の低減についても、常に意識して対応している。

点検中項目【5-23】 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

教務科とクラス担任が連携し、学生からの相談全般の対応にあたっている。また、専門知識を持ったスクールカウンセラーが定期的に来校して、学生のカウンセリングにあたっている。

また、将来への不安や進路に対する悩みを抱えている学生には、キャリアカウンセラーが、カウンセリングにあたっている。

キャリアカウンセリングについては、年度内で最低でも1回は全学生を対象としてカウンセリングを行うことで、悩みを抱えている学生が相談しやすい体制を整えている。

名古屋情報専門学校

点検中項目【5-24】学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

経済的支援が必要な学生に対しては、日本学生支援機構などの公的制度を活用するほか、本校（学園）独自の奨学金制度を設けている。

令和2年度からの高等教育費負担軽減政策により、経済的な負担は軽減されている。

点検中項目【5-25】学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

学校保健法に従い、毎年度4月に定期健康診断を実施している。診断は医療機関に委託し、診断結果は学生に伝え、日頃の健康管理を意識するよう促している。学生からの健康上の相談や、学内での発病、事故などの際は、教職員が適切な対応を行うことができるよう、連携体制を整えている。

また、校内にAED（自動体外式除細動器）を設置していて、教職員への使用方法等の研修も実施している。

点検中項目【5-26】課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

学校行事としての課外活動では、学校祭、スポーツ大会があり、学生が主体的に活動できるように学校が補助を行う。

他の活動としては、ボランティア活動があり、学校が設置されている地域の清掃活動や祭りの補助、介護施設の季節毎のイベントの補助などを行い、学校は地域や施設との連絡や補助を行い学生が活動しやすい環境を提供している。

令和5年度については、コロナ禍も明けて、ボランティア活動を行う機会も出てきた。また令和3年度から実施している学内で高等課程2年生を対象としたワークショップ祭も引き続き開催した。モノ作りを他人に教えることをとおして、思いやりやおもてなしの心、教えることの楽しさややりがいを感じる事ができた良い機会となった。

点検中項目【5-27】学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

本校は愛知県下の近隣の学生が多いため特に学生寮は設置していないが、必要な学生には民間不動産業者を紹介し、学生・保護者のニーズに対応できるようにしている。

名古屋情報専門学校

点検中項目【5-28】保護者と適切に連携しているか

毎年各学年1回は保護者会を行い、学生の学習状況、生活面や就職活動などについて必要に応じて相談会を開催し、クラス担任から報告・相談を行い保護者との連携を深められるようにしていたが、1年生については6月末と1月に、2年生は6月末と12月に、就職活動をスムーズに進めることを趣旨として行った。

また、日常的な対応として、修学状況などについて必要である場合は、クラス担任が適宜、保護者に電話や文書で連絡を取ったり、面談を行ったりしている。

点検中項目【5-29】卒業生への支援体制はあるか

学生は卒業と同時に校友会会員となる。校友会は、会長および常任役員を卒業生が勤め、事務局を学内に置いている。主な事業は、会員相互の親睦、準会員（在校生）の就職に関する助言、慶弔に対する表意、準会員に対する褒賞などである。

また、就職に関し、卒業後もキャリアカウンセリングを利用できるようにしたため、卒業後に利用する卒業生も出てきた。

名古屋情報専門学校

基準6 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・防災に対する体制は整備されているか	4

点検中項目【6-30】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

各施設・設備の運営管理は、それぞれ管理者を定め、日常の管理にあたっている。普通教室以外には、多目的ホール、コンピュータ室、カウンセリング室、進路指導室等の特別教室があり、実習授業やクラブ活動等で有効に活用している。視聴覚機器や情報機器は、定期的に機器のメンテナンスを行うとともに、学習環境向上のための機器の新規導入や機種変更等を積極的に行っている。

また、警備会社・ビルメンテナンス会社と契約し、校舎内の防犯・安全・衛生の体制を整えている。

令和2年度から導入している、ロボットアームは、アルゴリズムの学習に活用できており、令和3年度からは全教室に電子黒板を導入し、授業効率も向上している。

点検中項目【6-31】学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

インターンシップは、希望学生の能力や資質をしっかりと判断し、必要に応じて適切な指導を行った上で、企業と学校が連携しながら実施している。

学校との直接的な連携を行っている企業については、1回のインターンシップに3日～5日間の期間で行い、参加学生の評価報告も受けている。学生には評価報告を伝えることで、学校生活中で改善方策に取り組むよう指導している。インターンシップなどの学外活動については、年度初めに全学生がインターンシップ保険に加入している。

点検中項目【6-32】防災に対する体制は整備されているか

消防設備点検業者により、年2回の設備点検を実施している。学生に対しては、避難場所の周知や災害発生時の対応についての指導を適宜行っている。学生への安全指導の強化、災害時の教職員の役割分担や対応等について体制を整えている。

避難訓練は、例年9月1日に実施することとしており、令和5年度についても実施した。

学生の登下校時や授業中、学校行事等で起きた事故・怪我などについては、保険で対処している。

名古屋情報専門学校

基準7 学生の募集と受け入れ

評価項目	評価
・学生募集活動は適正に行われているか	3
・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	3
・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3
・学納金は妥当なものとなっているか	4

点検中項目【7-33】 学生募集活動は適正に行われているか

学生募集活動は、学校パンフレットやHP等の募集用ツールでの広報、体験入学が主なものである。

募集用ツールの作成については、初期段階から教務責任者・各学科責任者が深く関わり、正確で適正な内容となるようにしている。最終段階では全教職員によって内容確認を行っている。

体験入学においては、通常の授業の雰囲気や伝えられるような実習体験を設定し、施設の見学などができるようにしている。

点検中項目【7-34】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

資格試験や就職実績などの教育成果のデータは、募集用ツールに掲載し正確に伝わるようにしている。データは主に前年度の最新の実績であり、教務責任者、就職指導担当者及び各学科責任者が、内容を確認し募集用ツールに掲載している。

点検中項目【7-35】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

学内で組織する選考委員により、本学が定める基準に則って入学願書及び調査書の記載内容を厳正に判断し選考を行っている。

点検中項目【7-36】 学納金は妥当なものとなっているか

毎年度見直しを行っている。同種分野他校の状況も参考にしながら、学内の担当委員が慎重に検討している。そして、学納金の設定案は、学園本部で妥当かどうか審議され、最終決定されている。

昨今の物価高等により、理事会および評議委員会に諮られ令和7年度からは学納金を増額することを決定した。

名古屋情報専門学校

基準8 財務

評価項目	評価
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・ 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

点検中項目【8-37】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

学校の現在の財務基盤は安定化に向かいつつあるが、より盤石とするために、中長期的計画をしっかりと立て財務基盤の更なる安定化を目指していく。具体的には、収入では学生等納付金の増額など、支出では最も比率が高い人件費をはじめ諸経費の削減などを積極的に進めていく。

点検中項目【8-38】 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

毎年度末、翌年度収入予算額を事務担当者が作成し、翌年度の施設設備充実計画を担当部署が立案し、学内・学園の審議の後、理事会での了承を経て実施している。

点検中項目【8-39】 財務について会計監査が適正におこなわれているか

毎年1回 公認会計士により、会計処理が適正に行われているか指導を受けている。
そして、学園内での組織で内部監査を行っている。

点検中項目【8-40】 財務情報公開の体制整備はできているか

私立学校法の規定に従い、財務報告(決算)として資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の学校会計3表を作成し、ホームページをとおして開示している。

名古屋情報専門学校

基準9 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
・自己点検・自己評価結果を公開しているか	4

点検中項目【9-41】 法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

本学園では事務部が法務に関する業務を統括しており、法令遵守についての総合的な管理を行っている。また、愛知県の私学行政関係等の窓口にもなっている。

学生の個人情報保護などについては学内で慎重に対応している。また、法令遵守についての教職員の研修は、夏休みの期間などを利用し希望者に対して適宜実施している。

点検中項目【9-42】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

学校法人名古屋学園では、学生及び入学希望者・学校資料請求者等の個人情報（プライバシー）は、尊重すべき大事なものとして認識し、個人情報取扱方針（プライバシーポリシー）を定め、細心の注意を払い管理している。個人情報は厳重な管理体制のもとで保持し、不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏えいなどを防止するため、個人情報を取り扱う教職員を限定し、取り扱い責任者を設けるなどの措置を講じている。また、これらの管理施策を浸透させるためのセミナーなどを実施し全教職員の意識向上を図っている。

パンフレット掲載等の個人情報掲載（個人・団体写真等）に関しては、学生各々の個人情報取得及び使用について、本人及び保護者に対し書面によって確認・承諾を取っている。

点検中項目【9-43】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

自己点検・評価については、平成21年度から導入の検討が始まり、毎年評価に着手している。評価により明らかとなった改善すべき事項については、実現可能な事項から随時改善に取り組んでいく計画である。

実施体制としては、学校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、各部署から委員を選出している。問題点の改善については学校全体で取り組んでいく。

学校関係者評価は、今年度から開始するため、学校関係者評価委員の意見を聴くことで、学校運営に反映し問題解決などに繋げていきたい。

点検中項目【9-44】 自己点検・自己評価結果を公開しているか

学校教育法施行規則に基づきホームページを通して公開している。

名古屋情報専門学校

基準10 社会貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

点検中項目【10-45】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

例年、学校が設置されている地域の清掃活動や祭りの補助、介護施設の季節毎のイベントの補助などを行い、学校は地域や施設との連絡や補助を行い学生が活動しやすい環境を提供している。令和5年度もNPO法人との連携で貧しい海外の国へ使われなくなった食器類を送る取り組みを行った。

さらに、2月には、近隣で営業されているパソコンを使った学習塾との連携で、専門学校体験を開催し、好評価を得られた。

点検中項目【10-46】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

上記項目10-45にある通り、ボランティア活動は積極的に奨励し、支援を行っている。